

県内の定時制、通信制生徒



ワークショップで意見を交わす生徒たち。学校の枠を超えて交流を深めた

学校の枠越え初交流

杜陵高で「さみっと」 視野広げ学ぶ機会に

県内の定時制、通信制高校の生徒が集い、意見を交わす「いわてT2(定通)さみっと」は28日、盛岡市上田の杜陵高で初めて開かれた。全日制に比べ少人数で学ぶ生徒たちが他校の生徒と触れ合う機会を設けたいと同校が企画し、主催。学校の枠を超えて交流を深め、視野を広げた。

盛岡工、一関一、大船渡、釜石、宮古、久慈長内、福岡、杜陵の各校の生徒約50人が参加した。開会式で杜陵の生徒が歌とバイオリンの演奏で歓迎。自己紹介やゲームで緊張をほぐした。

「こんな学校があったらいいな―未来の学校」をテーマにしたワークショップではグループに分かれて議論。「学校にコンビニがあればいい」「毎年修学旅行に行きたい」などさまざまな意見が出た。

こうしたい思いをまとめて「自由に生きる学校」「居場所がある学校」などのキヤッチコピーにし、理想の学校の魅力を伝えるポスターも作った。

杜陵定時制3年の平野天音あまねさんは「他の定時制、通信制高校の特徴を知ることができて面白かった。行事なども参考にしたい、生かしたい」と充実の表情を見せた。

同校の三田正巳校長は「他校の生徒たちと意見交換することで人間関係や視野を広げることを目的に企画した。今後は東北地区の学校の生徒とも交流できればいい」と展望した。